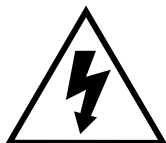




M5 Stompbox Modeler

取扱説明書

安全上の注意事項



注意

感電の恐れあり開けるな



警告:火災や感電の危険を避けるため、ネジは決して外さないこと。ユーザー一人で修理、調整可能な部品は含まれていません。資格のあるサービスセンターに依頼してください。

警告:火災や感電の危険を避けるため、本機を雨や水がかかる所には設置しないこと。

注意:本機はテストの結果、FCC規制の Part 15に基づくクラス B デジタル装置の制限に準拠していることが証明されています。操作は以下の2つの条件下で行われます: (1)本機は有害な干渉を引き起こさないこと。(2)本機は意図しない誤操作を引き起こす可能性のある干渉を含め、他からのいかなる干渉も受け入れること。



三角形の中の稲妻マークは「感電の危険」を意味しています。器機の内部に絶縁されていない危険な電圧が存在し、感電の危険があることを警告しています。



三角形の中の感嘆符は「注意喚起」を意味しています。注意喚起マークの横にある記載事項は全てお読みください。

ご注意:

Line 6および M5は、Line 6, Incの登録商標です。他全ての製品名、登録商標、及びアーティスト名はそれぞれの所有者の権利に基づくものであり、Line 6社との関連、あるいは提携関係はありません。製品名、イメージおよびアーティスト名は、本機、Line 6のサウンド・モデル開発中に研究対象となった製品の音色とサウンドを識別するためにのみ使用しています。これらの製品名、商標、イメージおよびアーティスト名の使用において、いかなる協力関係もエンドユーザーにもありません。

シリアル番号: _____



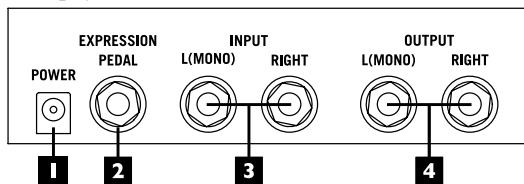
これらの安全上の注意事項を良くお読みください。この取扱説明書は大切に保管してください。



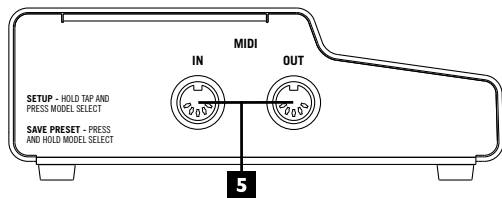
- 以下の注意事項を良くお読みください。
- 以下の注意事項を守ってください。
- 全ての警告を守ってください。
- 全ての指示に従ってください。
- 本機を水気の近くで使用しないでください。
- お手入れは必ず乾いた布で拭いてください。
- 通気口をふさがないようにください。取扱説明書で指定された場所に設置してください。
- 本機をラジエーター、暖房器具やその他の器機(アンプリファイアーを含め)、熱を発生する熱源の近くに設置しないでください。
- 本機は適切にアース設置された主コンセントに接続してください。
- ポラライズド・プラグ、またはアースタイプのプラグの安全上の主旨を無効化しないでください。ポラライズド・プラグには2枚の刃があり、一方が片方より幅が広がっています。アース端子付きプラグには2枚の刃と設置用の端子が付いています。幅広の刃と接地用の端子は安全上の配慮によるものです。本機の差し込みプラグがコンセントに合わない場合は、電気工事を依頼し適切なコンセントに交換してください。
- 電源コードを踏んだり、または特にプラグの部分、ソケットの部分、本機との接続箇所等がねじれたり挟まれたりして破損しないように注意してください。
- 弊社により指定された付属品／アクセサリーのみを使ってください。
- 本機の設置は弊社の推奨するカート、スタンド、三脚、ブラケット、テーブルなど、または本機に同梱の製品を使用してください。カートを使用してカートと本機を組み合わせて移動するとき、落下等で怪我をしないように十分に注意してください。
- 雷を伴った悪天候の時、または長時間使用しない時は電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 修理は全て資格のあるサービスセンターに依頼してください。本機の電源コード、またはプラグが破損したり、液体や異物が本機の内部に入ったとき、雨天や湿度の高いところで使用して作動しないとき、本機が落下したとき等損傷や故障が生じた場合には修理が必要です。
- 本機を水滴のかかる場所での使用は設置はしないでください。また本機の上に花瓶のように液体の入ったものを置かないでください。
- 警告：火災や感電の危険を避けるため、本機を雨や水がかかる所には設置しないこと。
- アプライアンス・カブラは、電源の切断器機として使用されます。常に操作できる状態を保つようにしてください。
- 適切な定格を備えた電源コンセントにのみに接続してください：100/120Vや220/240V 50/60Hz (同梱の電源の電圧に応じて)。
- 大音量で長時間使用すると、難聴や聴力障害を起こすことがあります。常に安全な音量で使用することを心がけてください。
- 本機が次のような状態で損傷した場合には修理が必要です：
 - 電源コードやプラグが損傷したとき
 - 本機の内部に液体が入ったり、異物が入ったとき
 - 本機を雨天や湿度の高い場所で使用したとき
 - 本機が落下したり、外装が損傷したとき
 - 本機が正常に作動しなかったり、性能が著しく劣化したとき



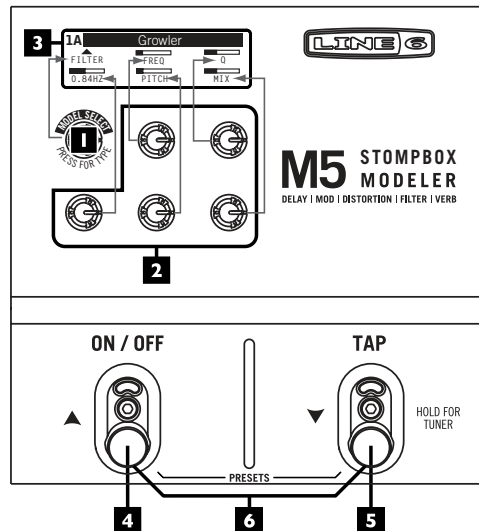
リア・コネクション



- 1. POWER** - 9VDC 500mA の電源をここに接続します。
- 2. EXPRESSION PEDAL** - Line 6 EX-1を含め、標準的なエクスプレッション・ペダルに対応しています。エフェクト・パラメーターを、エクスプレッション・ペダルの入力に割り当てれば、リアルタイムでコントロールすることができます。Line 6エクスプレッション・ペダルは、標準的な1/4インチ、モノ・シールドケーブルを使用する、パッシブな10kΩモノのリニアテーパー・ポットです。
- 3. INPUT** - ギターまたはその他のモノ音源を接続する場合は、**L(MONO)**端子を使用します。
- 4. OUTPUT** - モノ出力には、**L(MONO)**出力端子を使用します。
- 5. MIDI IN/OUT** - MIDIシステム・エクスクルーシブ・メッセージを介して、離れた場所からプリセットの変更、エクスプレッション・ペダルとタップ・テンポのコントロール、プリセット・データのダンプや受信を行うことができます。



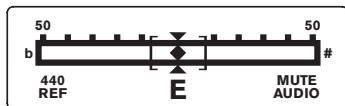
基本操作



- 1. MODEL SELECT** - ノブを押して気に入ったエフェクトタイプ(ディレイ、モジュレーション、ディストーション、フィルター、リバーブ)を選びます。次にノブを回し、使用可能なエフェクトをスクロールして選びます。
- パラメーター・ノブ** - これらのノブを使用して、画面に現在表示されているエフェクトの設定をエディットします。これらのノブでコントロールする設定の位置は、上の図で示す通りです。**注意:** エディット・パラメーターを微調整する場合は、**TAP**を押しながら**パラメーター・ノブ**を回します。
- 3. 画面** - 選択したエフェクトに関する全ての設定が画面に表示されます。現在選ばれているエフェクトタイプが、それぞれの色で識別できます(ディストーション= 黄色、ディレイ= 緑、モジュレーション= 青、フィルター= 紫、リバーブ= オレンジ)。

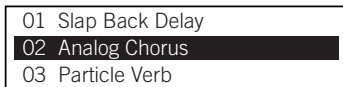
4. TAP - タップ・テンポは、全てのディレイ・エフェクトに有効ですが、モジュレーション・エフェクトでは一部を除いたほぼ全てに有効です。フィルター・エフェクトに関しては一部に限って利用することができます。ディレイとモジュレーション・エフェクトの場合は、**上段、中央のパラメーター・ノブ**を回します。フィルターに関しては、**下段、左のパラメーター・ノブ**を最大値まで回すことでタップ・テンポと通常の操作モードとを切り替える事ができます。タップ・テンポの操作モードに入ってから、このノブを回して有効な音符値を1つ選択します。**TAP**スイッチを2、3回以上タップすると、タップ・テンポ・コントロールの有効なエフェクト全てのタイム/スピード/テンポが、タップしたテンポに合わせて変更されます。エフェクトに対するタップ・テンポ操作を終了するときは、このノブをもう一度最大値まで回します。**注意**:タップ・テンポ・コントロールに設定されたパラメーターは、エクスプレッション・ペダル操作で影響を受ける事はありません。

チューニング - チューナー・モードに入るには、**TAP**を長押しします。全てのエフェクト処理はバイパスされます。左下のパラメーター・ノブで基準周波数を設定します。右下のパラメーター・ノブで「**BYPASS AUDIO**」または「**MUTE AUDIO**」を選択すると、音出しせずにチューニングができます。チューナー・モードを終了するときは、**ON/OFF**か**TAP**を押します。



5. ON/OFF - エフェクトのオンとオフを切り替えます。オンにすると、フットスイッチが点灯します。

6. PRESETS - プリセット・モードに入るには、**ON/OFF**と**TAP**を同時に押します。M5には前もって24種類のプリセットが搭載されています。画面には現在選ばれているプリセットを中央にして、常に3種類のプリセットが一度に表示されます。



次のプリセットに進むときは **TAP**「▼」を、前のプリセットに戻るときは **ON/OFF**「▲」を押します。ON/OFFとTAPを同時に押すと、選択したプリセットを読み込んで「パフォーマンス・モード」に戻ります。プリセット・モードからでも**MODEL SELECT**ノブを回してプリセット間をスクロールすることができます。実行したいプリセットをハイライトさせ、**MODEL SELECT**ノブを押します。これにより自動的にパフォーマンス・モードに戻ります。

プリセットの保存、ネーミング、アレンジ

自分だけのプリセットをカスタマイズして保存したり、ファクトリー・プリセットのどれでも簡単にリネームすることができます。保存操作を開始する場合は、**MODEL SELECT**ノブを2秒程押します。以下のような画面が表示されます:

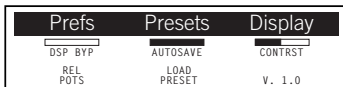


右上のパラメーター・ノブを回し、新しいプリセットの保存先となるプリセット位置(01~24)を選びます。プリセットの名称を変更したい場合は、**上段中央のパラメーター・ノブ**を使用して、カーソルを変えたい文字位置まで移動させます。**MODEL SELECT**を押して4種類の文字セット(全て大文字、小文字、数字、記号)の中からいずれかを選択します。次に**MODEL SELECT**ノブを使用してその文字セットの中をスクロールします。プリセットのリネームが完了した後、**MODEL SELECT**を2秒ほど**長押し**してそのプリセットを保存します。これにより自動的にパフォーマンス・モードに戻ります。保存したくない場合は、**TAP**フットスイッチを押します。**注意**: M5にはプリセットの保存方法として2種類のモードが用意されており、セットアップ・ページで変更することができます(以下の「マニュアル/オート・セーブ(Presets)」参照)。Autosaveに設定しておく、エフェクトに対して行った、いかなる調整も上記の保存操作を行わずに保存することができます。プリセットを毎回調整しても、プリセット名を変更しなくても済むようにしたい場合は、このモードを使用してください。PresetsがManualに設定され

ている場合、調整を加えても保存操作を行わない限り、再び同じ設定を呼び出すことはできません。

セットアップ

セットアップ・ページへアクセスするには、**TAP**フットスイッチを押しながら**MODEL SELECT**ノブを押します。以下のような画面が表示されます：



TAPボタンを押せば、いつでもセットアップ・ページから抜けることができます。

True Bypass/DSP Bypass

エフェクト・ユニットやチューナーを使用しないときに、M5 Stomp Modelerを信号経路から外したい場合は、True Byp を選択します。DSP Byp を選んだ場合、これらのエフェクトを切ったときでも突然音がカットされる代わりに、ディレイとリバーブが滑らかに減少していく効果が得られます。

マニュアル/オート・セーブ (Presets)

一旦エフェクトを調整した後、他のプリセットに切り替えてからもう一度戻ったときでも、その内容はそのまま残ります。保存操作をする必要はありません。まるで異なる個々のストップボックスを調整したかのように、それぞれの設定が最後に触ったノブの状態のまま残ります。

プリセットを調整して加えた新たな内容を残したくない場合は、**上段中央のパラメーター・ノブ**を使用して「MANUAL」に設定してください。この場合、新しい設定内容を保存するためには「プリセットの保存、ネーミング、アレンジ」で記載されている手順で操作をしなければなりません。

Contrast

画面の明るさを設定します。

REL/ABS POTS

RELモードを使うと、1つのノブを回してパラメーターを調整するとき、その値がノブの位置まで突然ジャンプせずに、上下の動きに合わせて一定間隔で徐々に変更することができます。ABSに設定すると、エフェクトのパラメーターを徐々に増加させる変更ができなくなります。パラメーター値は常に現在のポットの位置から調整します。

LOAD/INSTANT PRESET

M5の初期設定では、これが「LOAD」に設定されています。プリセット・モードに入っても、**ON/OFF**と **TAP**の両方を押すか、**MODEL SELECT**ノブを押すまでは、新しいプリセットの選択を行うことができません。

下段中央のパラメーター・ノブを回すことで、これを「INSTANT PRESET」に設定することができます。この設定を選択しておけば、プリセット・モードに入ってから ▲ ▼ フットスイッチを使用したり、**MODEL SELECT**ノブを回した瞬間にプリセットを読み込むことができます。

ファームウェア・バージョン

セットアップ・ページ1の右下に現在のファームウェア・バージョンが表示されます。M5のアップデートは、www.line6.jpから無償提供されるLine 6 Monkeyソフトウェア・アプリケーションを使用することができます。

追加セットアップ (ページ 2)

セットアップ画面のページ2へアクセスするには、**MODEL SELECT**ノブを1回押します。以下のような画面が表示されます：



MIDI

MIDIインターフェイスと SysEXアプリケーション(システム・エクスクリューシブソフトウェア)を利用することで、M5のプリセットを全てコンピュータにバックアップすることができます。カスタム・プリセットのライブラリーの構築や、他者とのプリセットの交換に便利です。プリセットのバックアップや、今使ったばかりのプリセットをダンプする場合は、次の手順で行います：

- **下段左のパラメーター・ノブ**を回して MIDI チャンネル(Ch. 1~16 や Omni - デフォルトは Ch. 1です)を設定します。
- MODEL SELECTノブを回して「DUMP ALL?」(24プリセットを全てバックアップ)か「DUMP PRE?」(現在選んだプリセットだけをバックアップ)を選びます。
- コンピュータで SysExを記録できる状態に設定し、**TAP** を押しながら**MODEL SELECT**ノブを押します。

M5は直ちにSysExファイルをコンピュータに送信し、シーンのデータをバックアップします。それによりシーンはいつでも保存したり、呼び出すことができるようになります。

プリセットをM5で読み込む場合は、SysExファイルをMIDI経由でM5に送信するだけです。これにより、データは直ちにM5のメモリーに読み込まれます。

ファクトリー・リセット: M5を出荷時の初期設定へ戻したい場合もありません。例えば、失ってしまった特定の初期設定のプリセットを呼び戻したい、あるいはただ振り出しに戻りたいとします。

ファクトリー・リセットを行う場合は、残しておきたいシーンがあればバックアップをしたうえで、次の手順で操作を行います。

- 画面にRST FACT?が表示されるまで、**MODEL SELECT**ノブを回します。
- **ON/OFF**を押しながら**MODEL SELECT**ノブを押します。「Reset To Factory? Are You Sure」が表示されます。
- ファクトリー・リセットを開始するには、**ON/OFF**を押しながら**MODEL SELECT**ノブをもう一度押します。

プリセットとグローバル設定を含め、全てがファクトリー・デフォルトに戻ります。

ファームウェア・アップデート手順: ここでコンピュータを使用した、M5のファームウェアのアップデート手順をご紹介します。www.Line6.jpへアクセスして、最新のM5ニュースをご覧ください。リリース間近の新しいファームウェア・アップデートに関する情報を入手することができます。以下のアイテムが必要です:

- コンピュータに接続するMIDIインターフェイス(通常のUSB経由)。まだドライバーをインストールしていない場合は、最新のドライバーをダウンロードしてください。
- MIDIケーブル2本(またはMIDIケーブルが接続されているMIDIインターフェイス)
- 最新のLine 6 Monkeyアプリケーションがインストールされているコンピュータ。

以下の手順でアップデートを行います:

- M5とコンピュータを MIDIケーブルで接続し、MIDIインターフェイスを経由させます。
- MIDIインターフェイス・ドライバーがインストールされていて、稼働していることを確認してください。
- Line 6 Monkeyアプリケーションを起動します。
- M5が接続された器機として表示されます。
- フラッシュ・メモリーのラインアイテムを選びます。
- 青いボタンを押し、画面上の手順に従ってください。

Line 6 Monkeyが最新のファームウェアをM5にインストールします。

テンポ

TAPフットスイッチを使う代わりに、TEMPOを使用してテンポを30から240 BPMまでを手動で調整します。下段中央の**パラメーター・ノブ**を回すことで、**TAP/BPM**をグローバルとして、またはプリセットの設定ごとにアサインすることができます。**注意:** BPMの調整の際に、より細かいコントロールを行いたい場合は、セットアップ・ページに入った後に**TAP**フットスイッチを踏んだまま保ちます。TAPを押しながら**パラメーター・ノブ**を回せば、BPMを0.1単位で微調整することができます。

ゲート

ゲートは、各プリセットに適用される特殊なペダルのようなものです。このエフェクトには、フットスイッチ・コントロールがないので、ゲートを常にオンにしたいときにのみ使用してください。ワイルドなディストーションやファズエフェクトを抑えたり、シングルコイルのギターから生じるハム音を解消するために使用すると便利です。**右上のパラメーター・ノブ**で

THRESHOLDを、**右下のパラメーター・ノブ**でこのエフェクトのDECAYを設定します。

エクスプレッション・ペダルを使用する

外部エクスプレッション・ペダルを通じて、全てのエフェクト・パラメーターのどれでもリアルタイムで調整することができます。エクスプレッション・ペダルのパラメーター割り当ては、プリセット毎に個々に保存されます。

エクスプレッション・ペダルをM5 ストンプボックス・モデラーに接続します。ペダルのトウ位置から始めます。エフェクト・パラメーターの設定が思い通りに仕上がりましたら、エクスプレッション・ペダルをヒール位置にロックします。好みに合わせてパラメーターを設定します。ここでエクスプレッション・ペダルをヒールからトウへ動かすと、調整したパラメーター全てがこれらの設定間を移動するのがわかります。



エクスプレッション・ペダルによって影響される全てのパラメーターは、ペダルのトウ位置のパラメーター設定を示すピクセルの印を画面上部に表示します。エクスプレッション・ペダルのヒール位置でのパラメーター設定を示す印もまた、下部に表示されます。**注意:** バーグラフはどの場合でも、最も右のピクセルよりも上の域や最も左のピクセルよりも下の域は、ペダルのパラメーター・コントロールが設定される両極端であるため、決して自動的に表示されることはありません。エクスプレッション・ペダルのヒールとトウ側の値が、特定のパラメーターに設定されていない場合は、画像イメージの表示がありません。**ヒント:** エクスプレッション・ペダルの設定を「消去」したい場合:エクスプレッション・ペダルを一時的に取り外し、ペダル・コントロールの「消去」したいパラメーターを調整します。再びペダルを接続し、これらのパラメーター用にエクスプレッション・ペダルのコントロール設定を最初から行ってください。

MIDIコントロール

M5は、1から16まで、または Omniのどの MIDIチャンネルでもMIDI CCとプログラム・チェンジ・メッセージの送受信が可能です。設定はセットアップ・モードの MIDI 画面から選ぶことができます。MIDIインプリメンテーションには、エフェクト・ユニット・オンとバイパス・メッセージのための MIDI CC、プリセットのためのタップ・テンポ、エクスプレッション・ペダル CCとプログラム・チェンジ・メッセージが含まれます。MIDIコントローラーやコンピュータ・シーケンサからM5をコントロールすることが可能です。

以下のMIDIリファレンス表は、現行のMIDI仕様を記載したものです。

機能	メッセージ	値域	注意
プリセット・チェンジ	PC	0~23 (プリセット01~24に対応)	
タップ・テンポ	CC64	64~127	
FX On/Off	CC11	0~63 (バイパス) 64~127 (On)	
エクスプレッション・ペダル	CC01	0~127	
チューナー・モード On/Off	CC69	0~63 (モードを終了) 64~127 (モードに入る)	
MIDIクロックに同期	MIDI ビートク クック		タップ・テンポ-MIDI ビートク クックを受信すると、自動的にエフェクト を同期させる

BPM-ミリ秒の換算

BPM	4分音符	8分音符	16分音符	4分3連符	8分3連符	32分音符
80	750	375	187.5	500	250	94
82	732	366	183	488	244	91
84	714	357	178	476	238	89
86	698	348	174	465	233	87
88	682	341	170	455	227	85
90	667	333	167	444	222	83
92	652	326	163	435	217	82
94	638	319	159	426	213	80
96	625	312	156	417	208	78
98	612	306	153	408	204	77
100	600	300	150	400	200	75
102	588	294	147	392	196	74
104	577	288	144	385	192	72
106	566	283	142	377	189	71
108	555	277	139	370	185	69
110	545	272	136	364	182	68
112	536	268	134	357	179	67
114	526	263	132	351	175	66
116	517	259	129	345	172	65
118	508	254	127	339	169	64
120	500	250	125	333	167	63
122	492	246	123	328	164	61
124	484	242	121	323	161	60
126	476	238	119	317	159	60
128	469	234	117	312	156	59
130	462	231	115	308	154	58
132	455	227	113	303	152	57

